

樹木の病害虫に関する調査研究

予算区分：県 単	研究期間：平成 31～令和 5 年度	担当：森林科学係 北野 皓大
----------	--------------------	----------------

(1) カシノナガキクイムシモニタリング調査 (1)

I はじめに

「ナラ枯れ」は、カシノナガキクイムシ（以下、カシナガ）が繁殖のため材内に穿入し、その際に持ち込まれる病原菌 (*Raffaelea quercivora*) 通称「ナラ菌」によってミズナラやコナラをはじめとするブナ科の樹木（ブナ属を除く）が枯死する伝染病である。本県では、2010 年みなかみ町湯楡曾で被害が確認された。2014 年には被害の発生はゼロとなったものの、その後 2015 年に再び被害が発生し、以後拡大傾向にある。被害の拡大により、森林景観の損失、民家や電線、道路への倒木被害の発生、水源涵養や土砂災害防止等の森林の公益的機能の低下等、様々な影響が懸念されている。また、カシナガは在来種であることか県内各地に生息している可能性がある。そのため本研究では、県内唯一の被害地であるみなかみ町で、生息状況を把握し被害発生予測及び被害拡大傾向を分析し、県内複数箇所で定点観測を行い、分布範囲や密度を把握することを目的としてモニタリング調査を実施した。

II 方 法

モニタリング調査は、みなかみ町内 21 箇所、前橋市、藤岡市、下仁田町、高山村、桐生市、林業試験場各 1 ヶ所の計 27 ヶ所で行った。2021 年 5 月 12 日から調査地にトラップの設置を開始した。調査地は、無被害地での被害拡大を防ぐためスギ林内とした。トラップは衝突板式トラップ（透明）（サンケイ化学(株)）に集合フェロモンのカシナガコール(サンケイ化学(株))を 1 つずつ、50%エタノール誘引剤を各 1 つずつ設置した（図-1）。衝突板式トラップの捕虫部にはプロピレングリコールを使用した。調査期間は 5 月 12 日から 12 月 17 日として、月 1 回回収を行った。捕殺した虫をカシナガとその他(ルイスナガキクイムシ、ヨシブエナガキクイムシ等)に分別し、その後雌雄の分別を行い捕殺数の計測を行った。



図-1 衝突板式トラップ

III 結果及び考察

図-2 と表-1 に示したとおり、カシナガが捕獲された調査地は 27 か所中 13 か所であった（みなかみ町内 9 ヶ所、前橋市、藤岡市、桐生市、林業試験場）。

みなかみ町内や県内各地でカシナガが捕獲され、無被害地域でもカシナガが生息していることが明らかになった。今年は初年度であるため、カシナガの生息数と密度の動向や分布範囲の拡大状況は比較できないため、今後も継続的に生息調査を実施し、カシナガの生息状況を把握するとともに、ナラ

枯れ被害発生との関係进行分析し、早期発見及び早期対策に寄与したい。

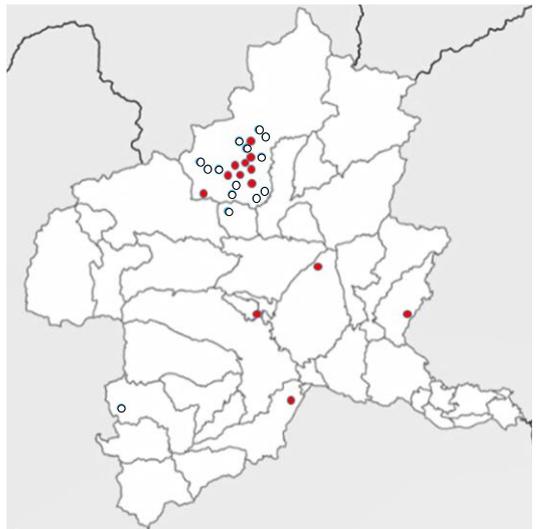


図-2 モニタリング調査結果

●：捕獲有り
○：捕獲無し

表-1 各調査地の捕獲数

設置位置	捕獲数(頭)	設置位置	捕獲数(頭)
湯桧曽	0	相俣	0
幸知	0	新巻	1
阿能川	0	入須川	9
谷川	236	師田	0
湯原	0	羽場	0
小日向奥	0	小川	18
小日向	41	下津	0
カップクラブ	2	高山村	0
寺間	24	桐生	2
カルチャーセンター	12	赤城	1
下牧	7	下仁田	0
後閑	0	藤岡	1
永井	0	林業試験場	43
姉山	0		